

# 令和3年度 コアマモ移植実験結果 (1/2)

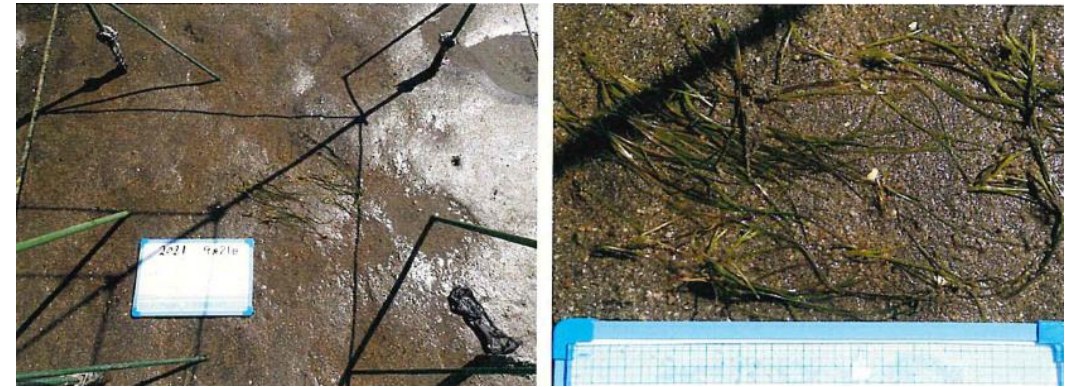
## 1.はじめに

大森ふるさとの浜辺公園における水質向上の施策として、水質浄化に効果のあるコアマモを、人口干潟及び砂浜へ移植し、その移植可能性について調査分析いたしました。なお、この移植実験は大田区と五洋建設(株)の共同で実施しています。



移植箇所図

## (2) 2021年9月21日観測



10株中8株残存

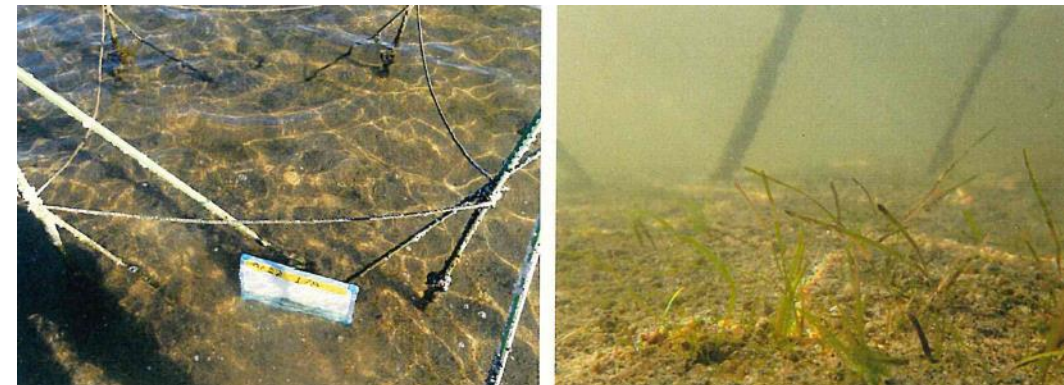
葉長=15~28cm 最大葉長が5cmほど伸長していた。

## (3) 2021年10月5日観測



15株に増加。葉長は7~20cmに伸長しており、新しい葉が出てきていた。

## (4) 2022年1月8日観測

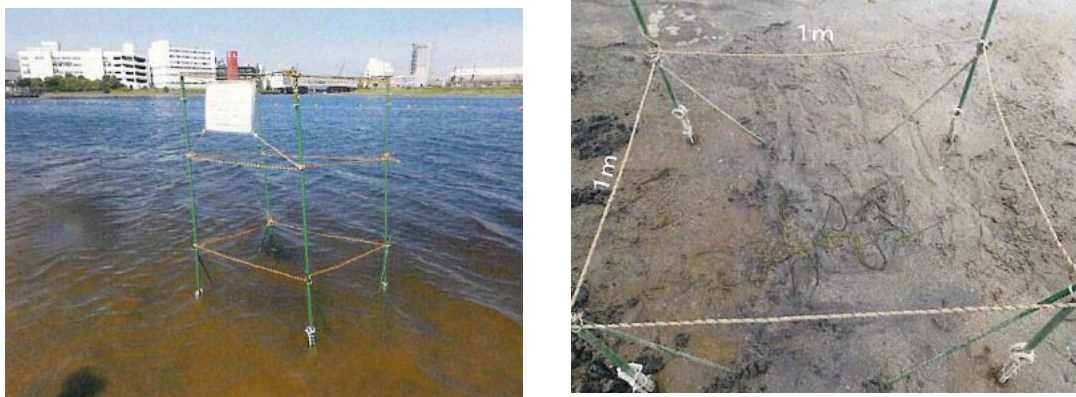


8株残存。葉長は3~5cm

衰退期であることから伸長していた葉は枯死していたが、新しい葉が伸長していることが確認できた。

## 2.砂浜部移植実験結果

### (1) 2021年8月23日移植



砂浜部 (AP+0.4地点) にコアマモを10株移植。

葉長: 18~22cm

⇒(2/2)へ続く

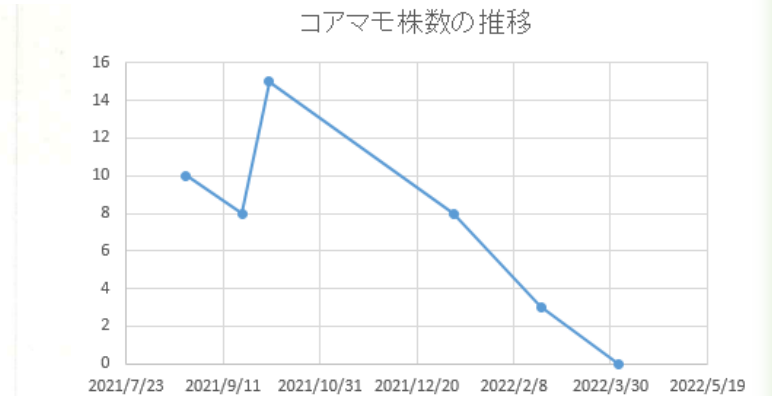
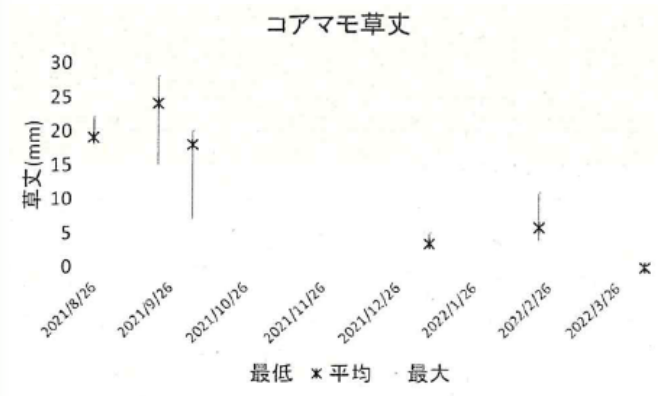
# 令和3年度 コアマモ移植実験結果 (2/2)

## (5) 2022年2月22日観測



3群落が残存  
葉長4~11 cm (平均5.9cm)

## 3. 考察



移植後、約半年間コアマモの残存しており、葉長の伸長や、株数の増加が確認できました。

人口干潟部に移植したコアマモについては、移植後1ヶ月ほどで全滅していたことから、砂浜部は干潟部分と比較して底質における硫化物の影響が少なく、コアマモの残存の可能性が高いと考えられます。

## 4. 令和4年度の移植実験について



## (6) 2022年4月3日観測



群落は消滅していた。  
オオバン（藻食性鳥類）の食害を受けた可能性が高い。

2022年4月20日に再移植を行いました。  
令和3年度の結果を踏まえ、移植株数の増加及び鳥よけネットの設置を行いました。また活発に成長する時期に合わせ移植時期を早めました。引き続き、当公園におけるコアマモ残存の可能性についてモニタリングしていきます。